



JETRO

# 湖北省、武漢市概況

日本貿易振興機構（ジェトロ） 武漢事務所

2018年12月

【問合せ先】

TEL：86-27-5950-0707

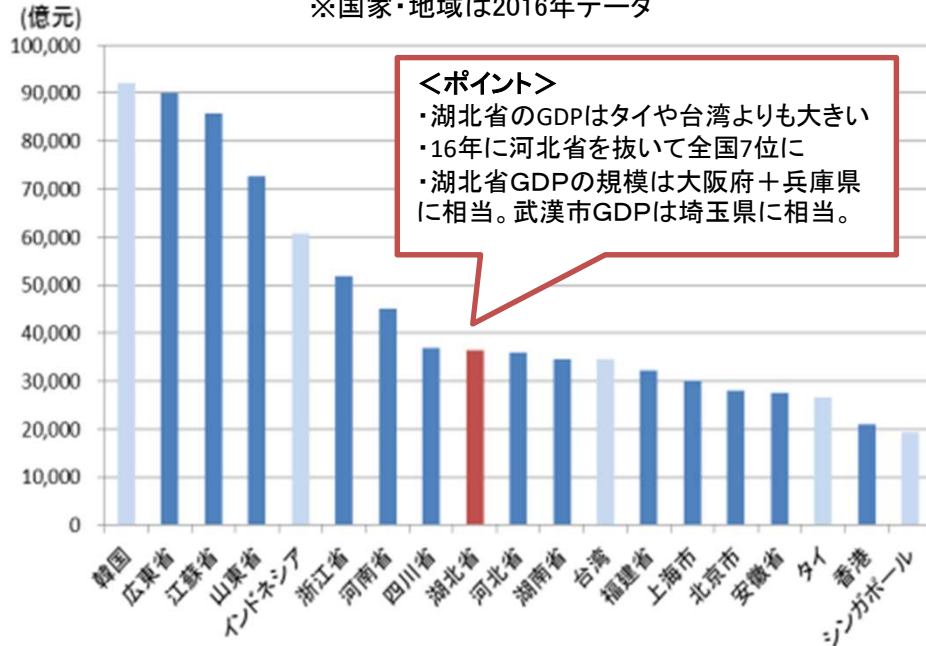
FAX：86-27-5950-0712

E-mail：PCW@jetro.go.jp

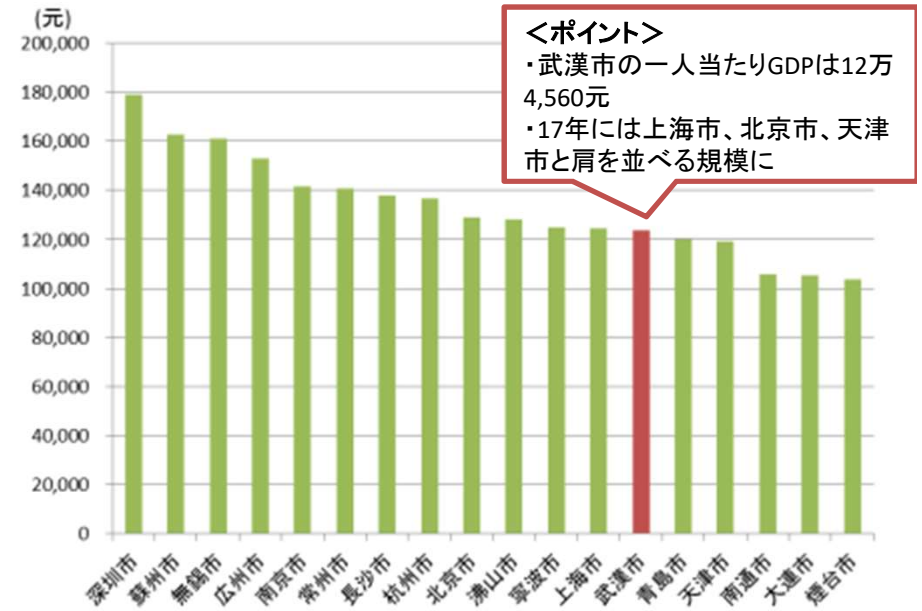
# GDPで見る湖北省と武漢市（2017年）

省別および国家・地域別GDP(2017)

※国家・地域は2016年データ



都市別一人当たりGDP(2017)



(注) 中国の省・自治区・直轄市のGDPは、中国統計局のデータを基に1USD=6.529RMBで試算。中国以外の国、地域(台湾含む)はIMFで公開されている名目GDP。

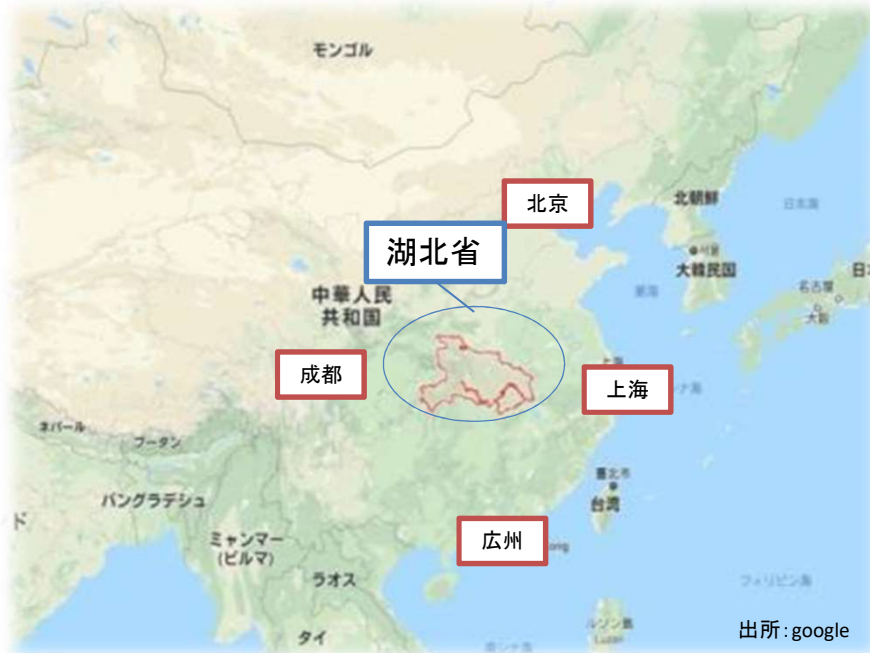
湖北省におけるGDPの推移(2012~2018年) (%)



武漢市におけるGDPの推移(2012~2018年) (%)



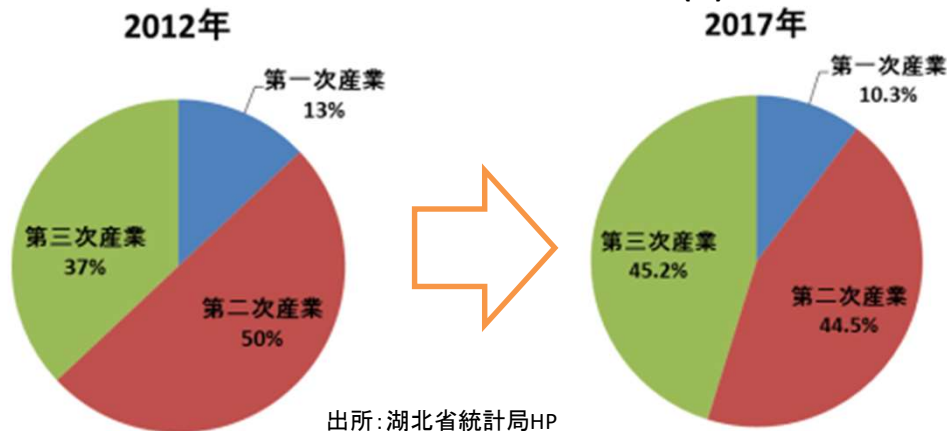
# 湖北省の概況



## <基本情報(2017年)>

- 面積: 18.6万km<sup>2</sup>(本州のおよそ3/4)
- 人口: 約5,902万人
- GDP: 約3兆6,522億9,500万元(前年比7.8%増)  
(62兆890億1,500万円、 ※1元=17円)  
⇒16年に河北省を抜き、全国7位へ。GDP成長率は全国平均(6.9%)を0.9ポイント上回る。
- 一人当たりGDP: 6万2,061元  
⇒全国平均(5万9,660元)とほぼ同じ規模
- 社会消費品小売総額: 1兆7,394億元  
(前年比11.1%増)
- 都市住民一人あたりの可処分所得:  
3万1,889元(前年比8.5%増)

湖北省における産業別GDP構成比(%)



## <ポイント>

- ①北京、上海、広州の中間地点にあり、また長江が流れていることから交通の要衝として発展
- ②主要産業は自動車産業で、同省工業生産額の2割を自動車関連産業が占める。しかし、近年はサービス業の成長も著しく、16年に第三次産業の割合が初めて第二次産業を上回る

# 武漢市の概況



## 【街の成り立ち】

- ・長江と漢江が合流する地理的優位性から「九省通衢」(四川、陝西、河南、湖南、貴州、江西、安徽、江蘇、湖北省と通じる交通の要所の意)と呼ばれる。
- ・1858年の天津条約によって漢口が開港され、列強各国が進出。戦前は上海に並ぶ大都市という意味で「大武漢」と呼ばれた。現在も漢口の長江沿いには租界時代の建物が多く残っている。
- ・「武漢」という名前は比較的新しく、1926年の中華民国の時代に3地区を合併して成立。各地区の頭文字を取って「武漢」という都市名になった。

## <基本情報(2017年)>

- 面積: 8,569 km<sup>2</sup>(兵庫県とほぼ同じ)
- 人口: 1,089万2,900人
- GDP: 1兆3,410億3,400万元  
(22兆7,975億7,800万円)※1元=17円  
⇒GDP成長率は8.0%で、全国平均(6.9%)を1.1ポイント上回る
- 一人当たりGDP: 12万4,560元  
⇒中国沿岸部の大都市と肩を並べる規模
- 社会消費品小売総額: 6,196億3,000万元
- 進出日系企業数: 162社  
(武漢商工クラブ会員企業数、18年4月時点)
- 在住日本人数: 約460人 ※公安局調べ  
(長期出張者や留学生を含めると500~600人)

## <ポイント>

- ① 武漢市は湖北省GDPの4割、貿易額の6割、外商投資額の7割を占める、湖北省の最大都市。
- ② 都市GDPは中部4省内(河南省、湖北省、湖南省、江西省)で最大。

# 湖北省と武漢市の概況 (3)

2017年経済指標	単位	湖北省	対前年増減	武漢市	対前年増減	湖北省に占める武漢市の割合
面積	万km <sup>2</sup>	18,59	-	0,86	-	5%
常住人口	万人	5,902	+33万人	1,089	+12万人	18%
GDP	億元	36,523	7.8%	13,410	8.0%	37%
うち第一次産業	億元	3,760	3.6%	408	2.8%	11%
うち第二次産業	億元	16,260	7.1%	5,861	7.1%	36%
うち第三次産業	億元	16,503	9.5%	7,141	9.2%	43%
社会消費品小売総額	億元	17,394	11.1%	6,196	10.4%	36%
都市部一人あたり可処分所得	元/年	31,889	8.5%	43,405	9.2%	-
貿易額	億ドル	3,134	20.6%	1,936	23.2%	62%
うち輸入額	億ドル	1,070	21.4%	779	17.0%	73%
うち輸出額	億ドル	2,064	20.2%	1,158	27.8%	56%
外商直接投資額(実行ベース)	億ドル	110	8.5%	96	13.2%	88%

(出所：湖北省及び武漢市統計公報)



江漢路(ジェトロ武漢撮影)

- ・湖北省/武漢市ともにGDP構成比や成長率で第三次産業が最大に
- ・社会消費品小売り総額や可処分所得も10%前後で伸びを続ける
- ・可処分所得は2013年頃の上海と同じレベル

●18年(1~9月)湖北省のGDPは2兆7,634億3,500万元で、前年同期比7.9%増

産業別伸び率と金額

- 第一次産業：2.8%増 2,632億元
  - 第二次産業：7.4%増 1兆2,131億元
  - 第三次産業：9.4%増 1兆2,872億元
- (出所：湖北省統計局HP)

●18年(1~6月)武漢市のGDPは6,780億元で、前年同期比8.2%増

※同期における全国成長率は6.8%

2017年	単位	上海市	北京市	深圳市	広州市	重慶市	天津市	蘇州市	成都市	武漢市
GDP	億元	30,134	28,000	22,438	21,503	19,500	18,595	17,320	13,889	13,410
常住人口	万人	2,418	2,171	1,253	1,450	3,075	1,557	1,068	1,604	1,089
住民一人当たり可処分所得	元/年	58,988	57,230	52,938	55,400*	24,153	37,022	50,350	33,217	38,642

\*都市住民のみ

(出所：各都市統計公報)



# 武漢市の5大ポイント

1

交通の要所として古くから発展し、水路、高速道路、高速鉄道、空路などのインフラ整備が急速に進んでいる。また武漢市内は地下鉄の整備が急速に進んでおり、2021年までに既存路線の延長も含めてさらに10路線が開通予定。

2

都市部人口が多く、80余りの大学等の高等教育機関が密集しているため、20代人口が2割を占める。優秀な人材が多い。

3

2017年の社会消費品小売総額は6,169億元。一人あたりGDPは12万4,560元となり、マーケットとしての魅力も大きい。

4

光谷地区を中心に、中部のハイテク産業、R&D集積基地としての発展が期待されている。

5

自動車産業の集積地：プジョー・シトロエン、ホンダ、日産などの大手外資自動車メーカーが既に進出。2015年2月上海GM武漢工場が稼働。ルノーも2016年2月に武漢工場が稼働。ホンダも2019年前半をめぐりに第三工場の稼働を目指す。東風日産の武漢工場も2019年から建設が始まる。

# 中国の東西南北を結ぶ交通の要衝、武漢

## 陸

### <高速道路・国道>

各省、主要都市へ通じる道路は武漢を通過するため、交通が便利。武漢を通過する道路には、滬蓉高速道路（上海⇄成都）、京珠高速道路（北京⇄珠海）、107国道（北京⇄深圳）、106国道（北京⇄広州）、318国道（上海⇄チベット・ニヤラム）、316国道（福州⇄蘭州）、蘭杭高速道路（甘粛省・蘭州⇄杭州）がある。

### <鉄道>

市内の主なターミナル駅としては、漢口駅と武昌駅、また高速鉄道専用の武漢駅がある。中国主要幹線の京広（北京～広州）線、武九（武漢～江西・九江）線などが通っている。また、「高速鉄道（新幹線）網」が整備され、武漢から北京、上海、広州、成都など主要都市への所要時間は3～6時間前後と大幅に短縮されている。

### <武漢と主要都市の距離>

都市	鉄道距離	高速鉄道最短移動時間	フライト時間
北京	1,200km	4時間19分(時速300km)	約2時間
上海	840km	4時間9分(時速200-300km)	約1時間30分
広州	1,069km	3時間43分(時速300km)	約1時間40分
重慶	912km	6時間11分(時速200-250km)	約1時間30分
成都	1,370km	8時間29分(時速200-250km)	約2時間



高速鉄道の復興号(武漢駅にてジェトロ撮影)

## 河

湖北省には7つの港湾があり、長江の上流、下流地域と連絡している。武漢には武漢港と陽邏（ヤンロウ）港がある。陽邏港は湖北省で唯一通関機能があり、現在武漢の河川物流基地として拡張しつつある。同港で保税区建設も進められている。陽邏港から上海洋山港まで最短約72時間（約3日）で到達できる。通常日本とのT.T(トランジットタイム)は日本行が11日間（平均）日本から武漢行が16日間（平均）程度である。

## 空

武漢天河国際空港は国内66都市に通じており、国内便は主要都市まで約2時間の距離で、国際便はパリ、サンフランシスコ、バンコク、クアラルンプール、シンガポール、ソウルなど約52都市に通じており、日本へは直行便が成田、関空、上海経由で名古屋、福岡、静岡に就航している。15年10月に南方航空が成田への直行便、**16年2月には春秋航空が成田への直行便、4月に全日空による成田への直行便が開通した。**また16年12月には市内と空港を結ぶ地下鉄2号線が金銀潭から空港まで開通。さらに**17年8月に中部最大級の国際空港となる第3ターミナルが開業した。**



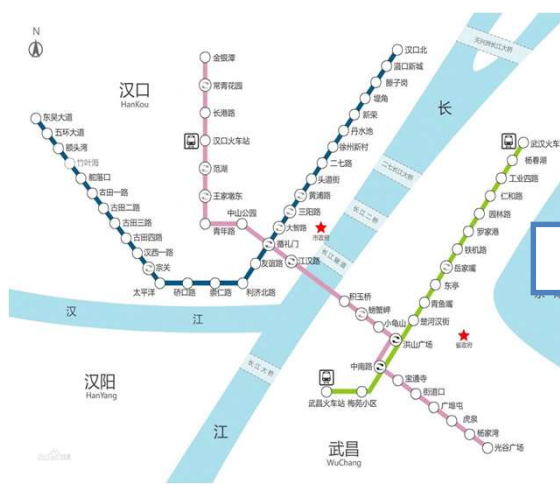
# 急ピッチで整備が進む地下鉄網

武漢市内の地下鉄は、2004年の1号線開通以降、2018年1月までに2号線、3号線、4号線、6号線、7号線、8号線、陽邏線の計8路線が開通。総延長は200キロ以上に。

- ・2021年までに、既存路線の延伸も含めて8路線が営業開始予定。
- ・最終的な全長は400キロ以上になり、上海や北京と肩を並べる規模の地下鉄が整備された都市になる



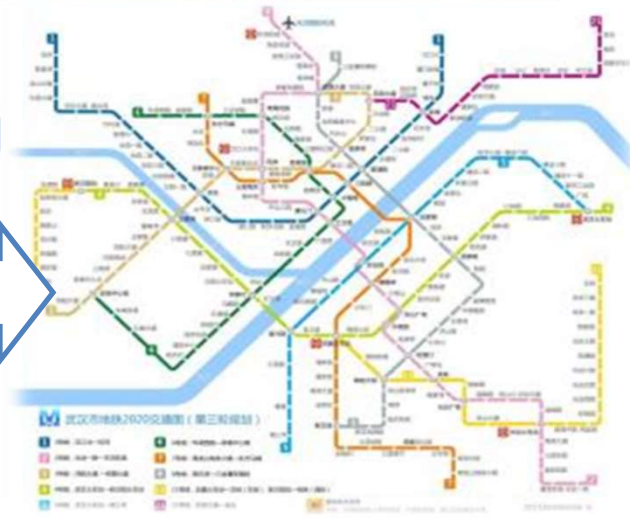
ジェットロ撮影



2013年



2018年現在

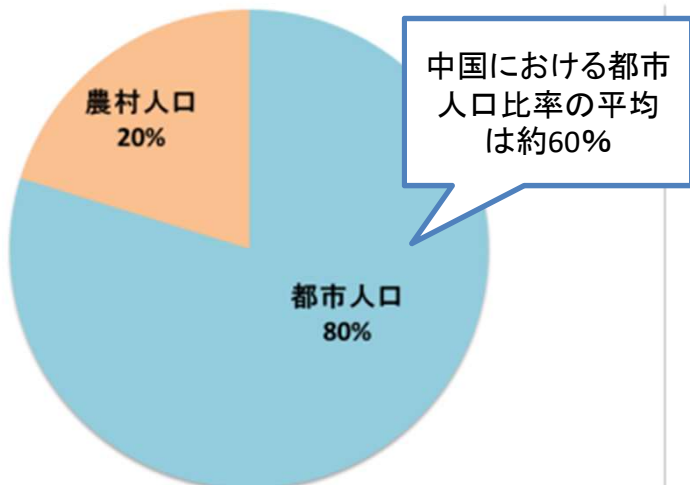


2020年(計画)

出所: 武漢地鐵集團HP

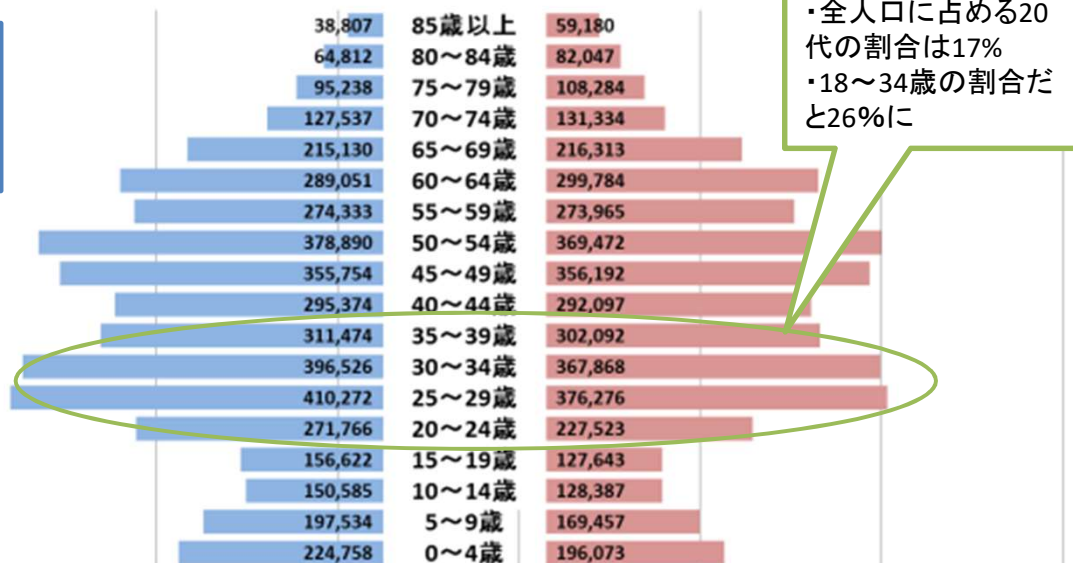
# 武漢-都市人口、20代人口が多い

武漢市の都市・農村人口比率  
(2016年末:常住人口1077万人)



\*常住人口には武漢戸籍以外の武漢住民が含まれている  
出所: 武漢市統計年鑑

武漢市における年齢別常住人口分布図  
(2016年末)



## <ポイント>

・武漢大学、華中科技大学など有名な大学が多く、優秀な若者が多い街

・武漢市は、消費をリードする若者と都市人口が多い都市



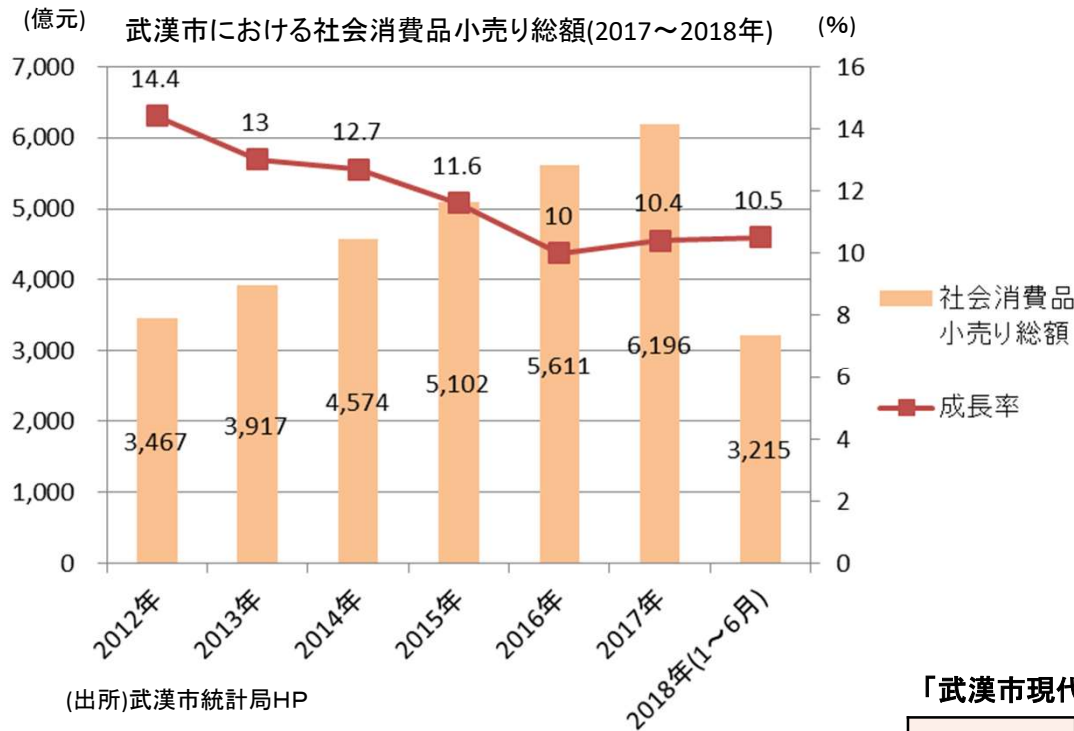
## <大学が多い武漢市>

・湖北省には高等教育機関(大学院、大学、短大、高専等)が129校あり、うち84校が武漢市に。

・16年、武漢市内で大学などの高等教育を受ける学生数は約120万人。



# 武漢市におけるサービス産業の発展



## ＜ポイント＞

- ・ 武漢市の社会消費品小売り総額は年10%を超えるペースで成長。
- ・ 内訳をみると、16年は卸/小売り業が前年比6.2%増の5,077億元となり、9割を占める。ホテル/飲食業は前年比12.2%増の533億元で、1割。
- ・ サービス業における企業数は、卸売業：971社、小売業：894社、飲食業：412社、ホテル業：200社  
(武漢市統計年鑑、16年における一定規模以上の企業)

## ＜武漢市サービス業における発展政策＞

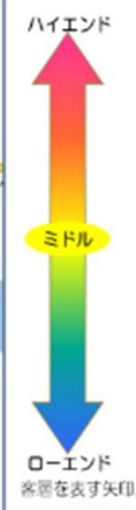
- ・ 武漢市政府は2016年10月26日に「武漢市現代サービス業発展“十三五”計画」を発表。
- ・ 同市政府は「規模倍増」「貢献増強」等の具体的な数値目標を設定することで、同市サービス業のさらなる発展を図る。

## 「武漢市現代サービス業発展“十三五”計画」におけるサービス業の発展目標

規模倍増	2020年までに、武漢市サービス業の付加価値総額を1兆元以上にしサービス業がGDPに占める割合を55%にする。
構造最適化	2020年までに、生産性サービス業の付加価値額がサービス業全体に占める割合を60%以上にし、また生活性サービス業の多様化、精細化、ブランド化を図る。
機能性向上	国家商業貿易センターや中部地域金融センターを創り、情報集積地としての機能をレベルアップさせ、全国市場の中心、資源要素配置の中心、また総合交通のハブを形成する。
貢献性強化	2020年までに、サービス業の就業者数を就労人口の55%にし、新たなサービス業をリードしていく企業を創り、世界的に影響のある産業イノベーションセンターを創る。

# 武漢市の主要商圈分布図

は新設した商圈  
 は既存の商圈  
 は増改築中の商圈



2016年5月更新



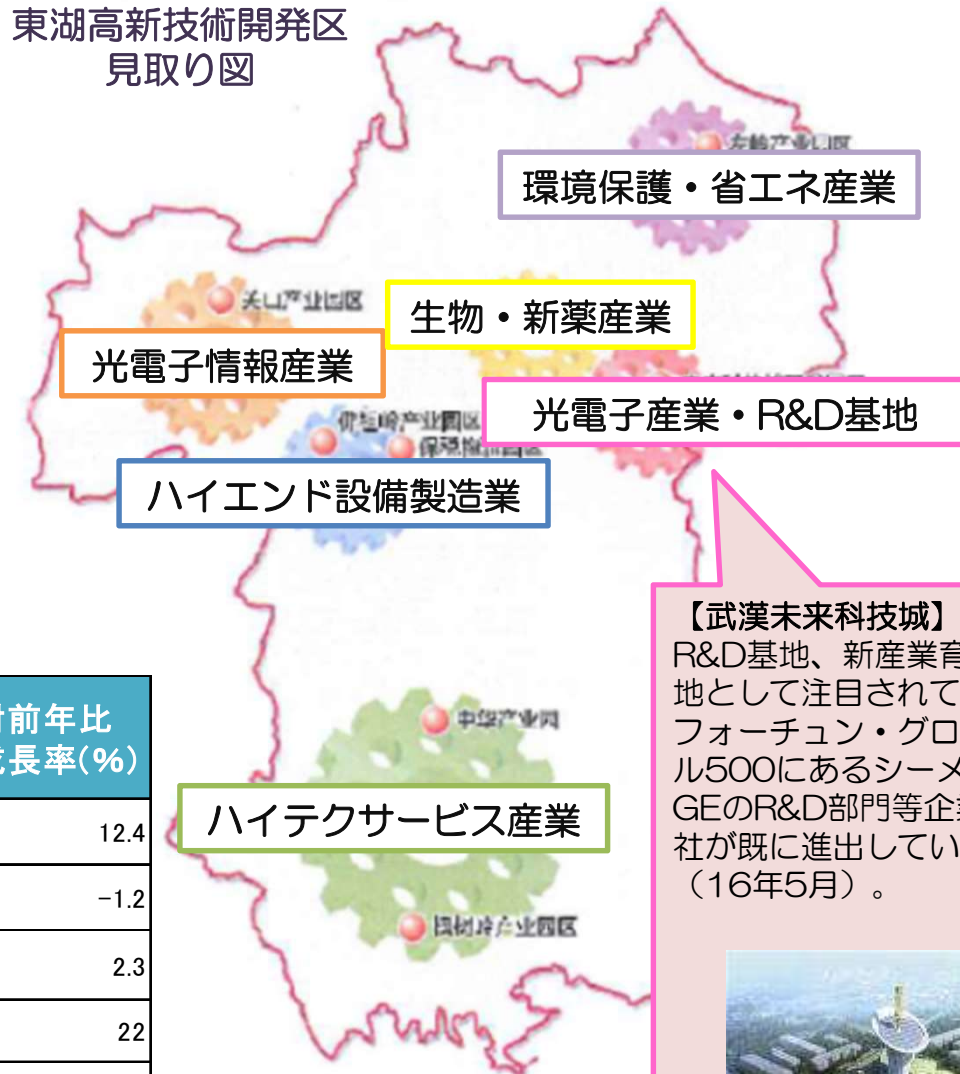
# ハイテク産業・R&D基地

武漢市の16年の工業の領域でのハイテク産業生産高は8,446億元（前年比12.6%増）、16年の付加価値額は2,344億元（前年比12.4%増）で、引続き堅調な成長を維持する。武漢のハイテク産業を引率する東湖高新技术開発区は、北京中関村に次ぐ第二のモデルハイテク開発区（東湖光バレー）として光電子情報産業を中心に発展し、現在では中国国内でも上位にランクインする規模になっている。中国中部のハイテク産業、R&D集積基地として今後ますます発展が期待される。

## 【工業の領域でのハイテク産業の生産高と付加価値額（武漢市2016年）】

2016年		生産高 (億元)	対前年比 成長率(%)	付加価値 額(億元)	対前年比 成長率(%)
ハイテク産業全体		8446.11	12.6	2343.61	12.4
産業別	電子情報産業	2130.81	9.3	456.61	-1.2
	ハイテク製造業	3188.01	9.7	854.86	2.3
	新素材産業	963.505	31.9	204.03	22
	バイオテクノロジー・ 医療機器	262.743	22	80.31	18.5

東湖高新技术開発区  
見取り図



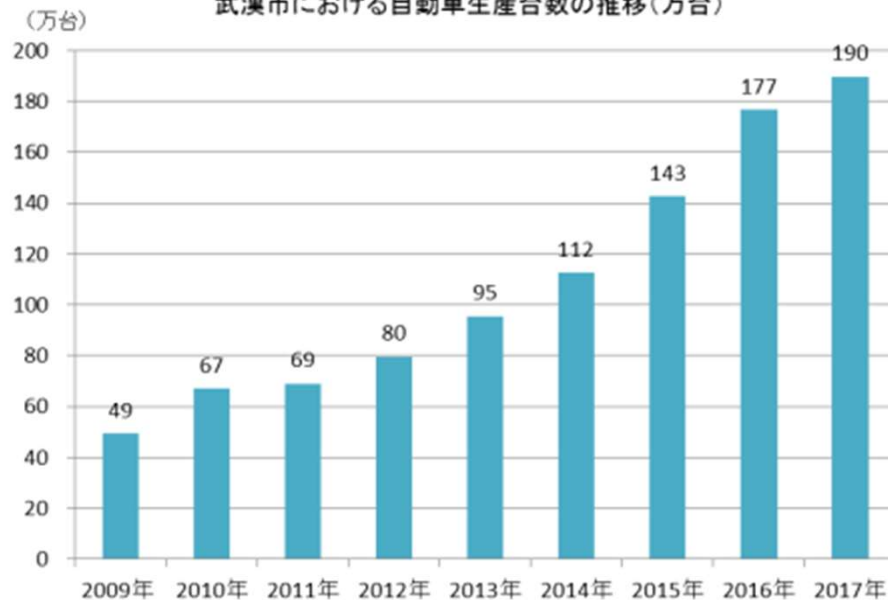
### 【武漢未来科技城】

R&D基地、新産業育成基地として注目されている。フォーチュン・グローバル500にあるシーメンス、GEのR&D部門等企業7社が既に進出している（16年5月）。



# 変化を迎える武漢市の自動車産業

武漢市における自動車生産台数の推移(万台)



(出所) 武漢市国民経済・社会発展統計公報を基にジェトロ作成

●武漢市では近年、従来の自動車に情報技術や新エネを融合させた「次世代自動車」への投資が活発化。自動運転技術の研究開発を行う武漢環宇智行科技は高度な自動運転システムの開発に成功し、自動車の量産も視野に入れる。

●東風自動車も、中国移動や華為（ファーウェイ）との共同開発で、無人運転のミニバスを開発。2019年以降に全国販売を開始予定。また、同社は自動運転システムの開発にも成功しており、2020年までに乗用車と商用車にL3の運転技術を搭載して高速道路での自動運転を可能に、2025年までにL4での無人運転を実現させる予定。この他、人工知能システムの「WindLink3.0」を搭載した次世代自動車を開発し、2021年までに同社の主要モデルである東風風神の全モデルにこのシステムを搭載予定。

●武漢経開区では、全国に先駆けて自動車の軽量化、電動化、スマート化、ネットワーク化、シェア化に向けた次世代自動車のテスト基地を建設中。

●武漢市統計局によると、湖北省武漢市における2017年の自動車産業の付加価値総額は3,000億元（5兆1,000億円、1元＝17円）を突破。自動車産業は8年連続で同市最大の産業となった。2017年の自動車生産台数は189万7,800台で、全国自動車生産量の6.5%を占めた。2012年時点で80万台程度だった同市の自動車生産能力は、5年で倍以上の規模にまで成長した（左図参照）。

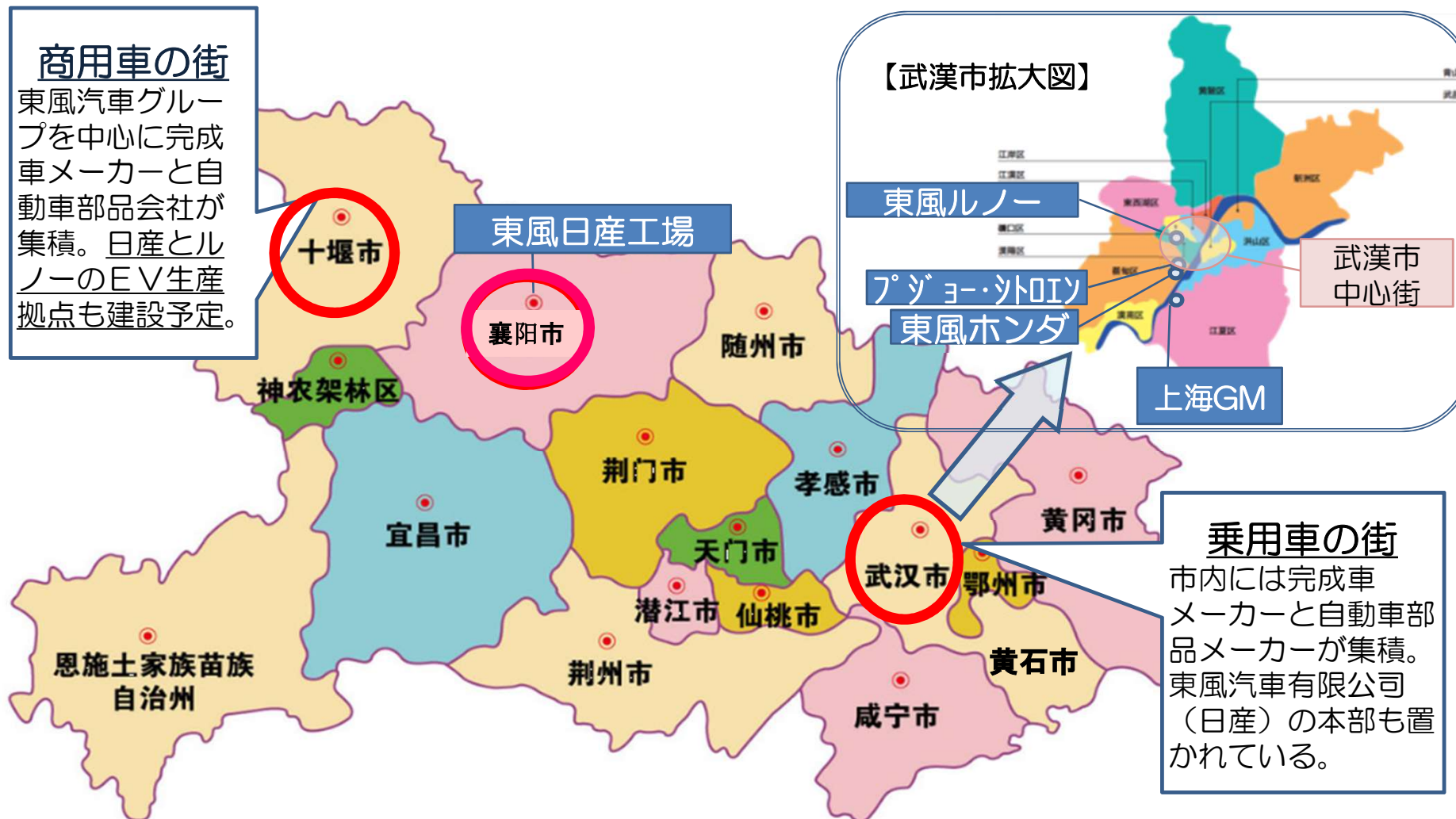
●武漢市内には東風自動車、プジョー・シトロエン（神龍自動車）、東風ホンダ、上海GM、東風ルノーが進出。また新エネ車でもBYD、江淮自動車、南京金龍等が武漢市に工場を持つ。2019年以降は、東風ホンダの第三工場、東風日産の武漢工場、吉利汽車の新エネ車武漢工場が稼働予定。また自動車系サプライヤーの数は500社（地場系、外資系含む）を超える。

## 武漢における自動車産業の動向

1988年	・中国・フランス合資自動車30万台生産プロジェクト締結
1992年	・神龍自動車（東風自動車とフランス・プジョーシトロエンの合併会社）設立
1993年	・武漢経済技術開発区設立
2000年	・神龍自動車の生産台数が15万台に
2003年	・東風ホンダ（東風自動車とホンダの合併会社）が同開発区内に設立 ・東風自動車の本部が武漢市へ移転
2009年	・武漢市内自動車生産台数が約50万台に
2015年	・上海GM（上海自動車とアメリカ・GMの合併会社）武漢進出 ・BYDが武漢市に新エネ車工場を建設 ・江淮自動車が武漢に新エネ車工場を建設
2016年	・東風ルノー（東風自動車とフランス・ルノーの合併会社）武漢進出 ・南京金龍が武漢に新エネ車工場を建設
2017年	・東風ホンダが湖北省内で初めて単体で生産額が1,000億元を超える企業に
2018年	・吉利自動車が武漢進出を決定
2019年以降	・東風ホンダの第三工場が稼働予定 ・東風日産が武漢工場を建設予定

(出所) 長江日報記事および各社HPを基にジェトロ作成

# 湖北省の3大自動車集積地—武漢・襄陽・十堰



湖北省の自動車製造基地は、武漢市、襄陽市、十堰市の3都市。17年湖北省の年間自動車生産台数は267万台(うち新エネ車は5万台)。武漢市、襄陽市では主に乗用車を製造し、十堰市では商用車(バスやトラック)を製造している。



# 武漢市内における 主な観光スポット

漢口

漢陽

武昌

旧租界  
エリア

ジェトロ  
武漢

新世界  
ホテル

晴川閣

戸部巷

長春観

東湖

武漢長江大橋

黄鶴楼

辛亥革命  
記念館

宝通  
禅寺

武漢駅  
(高速鉄道  
専用)

緑地中心

車でおよそ20分